

嘉手納村広報

所役人盛所
行村行盛所
納兼行盛所
手集袋刷文
編印

嘉手納村
島編袋印
研

第六回ポリビア移民募集

本村役所経済課では、左記要項に依つて第六回ポリビア移民の募集事務を開始してをりますが、八月二十日現在応募者八十四名となつております。尚この事務は八月二十六日で締切ることになつており、希望者はそれまでに申込むよう村当局では、一般に呼びかけています。

一、入植地 ポリビア国サンタクルー
ス洲ワルネス郡

二、受入側 コロニア沖繩農業組合

三、送出側 琉球政府

四、送出時期
第六次移住者一九五八年十月
次期送出予定一九五九年一月以降

五、募集
一、人員 第六次移住者 二二〇人
次期送出予定移住候補者 四〇〇人
計 六二〇人

二、締切 八月二十六日村役所必着の事

三、応募
(イ) 移住希望者は所定の申込書に履歴書を添えて本籍地の市町村長へ提出第一次選考を受ける。
(ロ) 第一次選考に合格した者は所定の申込書に履歴書(全員の可勤者)戸籍謄本、最寄の医師の健康診断書(家族全員)、村長の発給する身元証明書(家族連名)、保証人(二人以上)の承諾書及び資産証明書を添えて村長を経由し行政主席へ願出する。

六、選考
一、第一次選考
(イ) 村長は応募者が移民の資格条件によつて適格者であるかを審査する。
(ロ) 村長は応募者中の適格者を応募関係書類を審査の上同書類を添えて行政主席へ推薦する。

二、第二次選考
海外移民送出計画審議会において村長から推薦があつた適格者中から書類及面接(家族全員)によつて厳正な審査の上決定する。

七、移民の資格条件
一、第五次までに入植した者の招致家族で住居生活、就労及び報酬が招致者によつて保証される者
二、新規移住者は年令満二十才から満五十才までの男子を戸主とする可仿者二人以上を有する純農家を基準とする。
三、身体強健、志操堅固しかも開拓意

欲が旺盛であつて農牧業に従事し得るもの。

4. 移住国に永住の目的をもつて渡航しうるものであつて、少くとも五年以上移住地域に定着し得るもの

5. 犯罪その他社会的に好ましくないからさる行為をした事がないもの。

6. 左記の病氣のないもの
伝染病結核性患者、トラホーム、

7. コロニア沖繩農業協同組合員となりうるもの。

8. ポリビア国の法律及び諸規定に従い得るもの。

八、渡航費及び入植地
一、渡航費を自弁し得ないものには移民金庫から融資する(十ヶ年の長期融資で三ヶ年据置、七ヶ年謝賦償還)

二、ポリビア政府から一家族当り三十町歩乃至五十町歩の土地が譲渡される。

お盆を迎える心構えと

盆 料 理

盆を間近かにひかえ、各家庭では色々の準備や経費の事で主婦の頭を悩ましている事でしょう。

良い盆を迎えるために、無駄な経費を使わずまた、昔からの因襲にとらわれず、ミエやしきたりはやめ、最小限の経費でよいお盆を迎えるために次の心構えをしましょう。

一、お盆を迎える心構え
1. お墓や仏壇、家屋の内外をきれいにして、お迎えしましょう。
2. 虚礼的な贈答はやめましょう。

二、盆料理としてこんな料理は如何でしょう。

3. 供物は無理をしないで、ミエやしきたりはやめましょう。
4. 食物はくされやすくしない物にしましょう。
5. お盆中は特に火の用心と、子供の食へ過ぎがないよう注意しましょう。

(作り方)

1. 玉葱をみじん切りにする。
2. 豚肉に調味料、葱のみじん切りをまぜ梅干大に丸める。
3. 揚油で揚げる。

- 盆 盛
- (1) 揚だんご (5人前)
- | | |
|-----|-------|
| 豚挽肉 | 40匁 |
| たまご | 1コ |
| 塩 | 茶サジ1杯 |
| 砂糖 | ク 2 |
| 醤油 | ク 1 |
| 玉葱 | 1コ |

(作り方)

1. 肉をうすく切る。
2. ごぼう、人参を肉の長さに縦切りにする。
3. 肉で午券、人参を巻く。
4. 調味液の中で(3)をどつぷりと煮込む。
5. 煮えたら両端をおとして盛りつける。

- (2) 午券の肉巻
- | | |
|-----|---------|
| ごぼう | 2本 |
| 人参 | 1ク |
| 豚肉 | 半斤 |
| 醤油 | 1) 1カップ |
| だし | 4) |
| 砂糖 | 大サジ2 |

(作り方)

1. 豆腐をよくしめて3cm角又は3cm厚味に切る。
2. よくやけた油で手早く揚げる。

- (3) 揚豆腐
- | | |
|----|----|
| 豆腐 | 半丁 |
| 揚油 | |

(作り方)

1. 午券を10cm長サに切り たゝくか4つ割位こ切り目を入れておく(味のしみ込み易い様に)
2. 昆布は少しゆるめに結ぶ。
3. (1)(2)を煮汁の中でゆつくり煮込むごぼうを下に昆布を上にして。

- (4) 煮物
- | | |
|----|---------|
| 午券 | 5本 |
| 昆布 | 2本 |
| 醤油 | 1/5 C |
| だし | 1カップ |
| 砂糖 | 大サジ2 |
| 味素 | 茶サジ 1/4 |

八ヶ年申す松

1. 甘辛だんご (5人前)

(作り方)

- 醤油 大サジ4
- 砂糖 〃 4
- かたくり粉 大サジ1

- (1) ショー油+砂糖+カタクリ粉をまぜ火にかける。
- (2) ゆでだんごを(1)の中に入れて煮詰める。

2. 黄粉だんご

- 砂糖 大サジ3
- 水 〃 2 } みつをつくる
- 黄粉 大サジ5
- 砂糖 〃 4 } まぜておく
- 塩 茶サジ2

- a ゆでだんごをみつにころがし
- b 黄粉をつけて盛りつける。

飲物 (1人分)

- ミカン (シークワーサー) 水
- 水 1カップ
- 砂糖 大サジ2
- ミカン 2コ
- 苦瓜でも出来る。

(5) 揚物 (5人前)

(作り方)

- 精進揚
- ピーマン 3コ
- 人参 中1本
- さつま芋 中1本
- にがうり 〃
- 干たう 2本
- 衣
- メリケン粉 2カップ
- たまご 1コ
- 水 2/3カップ
- 塩 茶サジ1
- 味素 茶 1/4
- ふくらし粉 茶 1/2

1. ピーマンは0.5cm厚味の輪切り
2. 人参は織切り
3. さつま芋は2cm角に
4. 苦瓜は0.5cm厚味に輪切る。
5. 干たうをもどして3cm巾に切り粉をふつて2本合せにする。
6. これらを衣をつけて揚げる。

冷ソーメン (5人前)

(ソーメンの茹方)

1. ソーメン (8~10束)
2. つけ汁

1. ゆですぎない様に
2. 沸騰した湯に1~2分間でざるにあげ水すゝぎをする
だしは鯉節又は鯉節+だし昆布

- だし 5カップ
- 醤油 1 〃
- 味素 茶 1/4
- だし昆布

3. 干たうの甘辛煮

- 干たう 2枚
- 白かまぼこ 1/4本
- しその葉 10枚
- さらし葱 2本
- 金糸卵 2コ
- わさび 大サビ1 (又はショウガでもよい)
- 干たう (砂糖大サジ+水大サジ3+塩大サジ1)
- 金糸卵 (卵1コに対し砂糖茶サジ1+塩茶サジ1/2)

酢のもの (5人前)

(作り方)

- 耳皮 1/2
- もやし 1カップ
- 苦瓜 1/2本
- (胡瓜、ピーマン、人参を用いてもよい)
- かけ酢 大サジ4
- 醤油 〃 1
- 塩 茶 1
- 砂糖 〃 2
- 味素 〃 1/4
- 辛子 〃 1

1. 耳皮は毛焼をして煮ておく織切りにする。
2. もやしは茹でておく。
3. 苦瓜は出来る丈うすく切り水にしばらく放つておく。
4. (1.2.3.) をまぜかけ酢をかける。

◎かけ酢は頂く前にかける。

(辛子の代りショウガわさびを用いてもよい)

- だんご 白玉粉2カップ+水.2カップ



一日20余名の失業者を吸収
村内道路整理に従事
一挙兩得の失対事業成果あがる

失業対策事業(略して失策事業)は、「多数の失業者の発生に対処し、できるだけ多くの失業者を吸収する事に依つて、その生活を図るとともに経済の興隆に寄与する事を目的とする」と条文の初めにうたわれています。即ち、この事業は、軍施設用地の拡大に依つて多くの農耕地を失い、或は軍工事の完成や減少等に依つて、缶工場を失い、失業者の発生が比較的多い地域に対して、実施されていますが、この事業を実施する事に依つて、多くの失業者を吸収し、いわゆるその者に職を与えて生活の安定を図るといふ、救済事業の一種であります。また失策事業の対象となる事業はできるだけ多くの労働力を使用する事業で雇用状況の変化に応じて、容易にその規模を変更し、又は停止する事が出来

る事業種目であります。
 失策事業の目的は出来るだけ多くの失業者を吸収する事であり、また、失業者が労働費が多くなる事業でなければなりません。

この事業の就労適格者は、失業者で次の要件を備えなければなりません。
 (一)現在失業して職を求めている者
 (二)就労の意志と能力を有する者
 (三)家計の主たる担当者である者
 以上の三要件であります。即ち失業して職を求めている者で、職業安定所に求職の申込みを行なっている者、そして何時でも働く意志と能力があるものであります。また家計の主たる担当者というものは、その者の労働賃金に依つて家計収入の主要部分を占め、生計を維持しているものでなければなりません。

以上の三要件の適格者でなければなりません。また、この三要件を具備しているものであつても、別収入があつて生活に事かゝらないものであれば、就労する事が出来ません(この事業は救済事業の一種でありますから)。
 就労希望者は、嘉手納職業安定出張所に求職申込みをすれば、係が身上調査や実態調査に基いて、適格要件を具備しているか、どうかを確かめてから、本人に通知して就労させています。

政府は、職業安定所に出頭して求職申込みをした失業者の数に依つて、始めて事業を起し補助金を交付するのであります。刻当者は出来るだけ早く職業安定所へ本人出頭の上求職申込みする様特に申し添えておきます。本村に於ける失策事業は、一九五七年三月下旬から、村内道路整備を中心として実施して、その内容は次のとおりであります。

失策対策事業説明書(嘉手納村)

工事執行順序	工事の内容	工事施行場所	失業者	補助額				吸収人員日数	
				労力費	事務費	資材費	計		
一九五七年度	3. 4 半 期	道路改修工事	嘉手納村8区地内	240名	24,000	5,240	18,760	48,000	20名の12日失策事業の始め
	4. 4 半 期	全 上	全 上	1,540名	154,000	26,240	127,660	307,900	20名の77日
	4. 4 半 期	全 上	全 上	421.7名	42,170	4,884	28,946	76,000	28名の15日
	(追加分)								
	合 計			2,201.7名	220,170	36,364	175,366	431,900	
一九五八年度	1. 4 半 期	道路改修工事	嘉手納村5区地内	395名	39,500	7,367	32,133	79,000	15名の25日
	2. 4 半 期	全 上	嘉手納村3区4区地内	1,113名	111,280	36,770	65,550	213,600	15名の75日
	3. 4 半 期	全 上	全 上	802名	80,286	17,992	52,659	150,937	15名の58日
	4. 4 半 期	全 上	嘉手納村3区地内	375名	37,500	6,960	30,540	75,000	15名の25日
	4. 4 半 期	全 上	嘉手納村1区地内	750名	75,000	8,857	60,743	144,600	30名の25日
	(追加分)								
	合 計			3,435名	343,566	77,946	241,625	663,137	

以上の様に、一日二十名の失業者を吸収し、輪番制にしています。
 失策対策事業の実施に依つて、村内道路は立派に整備されると同時に失業者には就業の機会が与えられるという一挙両得の利を得ています。

失業者は、もちろんの事完備された道路は、村民に多くの便利と利益を与え心から喜ばれています。そして次期事業計画にも皆んなの積極的協力が要望されています。

畜犬税の正確賦課のため移転届や死亡届を早急に

去年(一九五八年度)の畜犬登録をなされた家庭で犬が死亡、又は捕獲によつて其の犬を失われた方は、早急にその旨村役所経済課へ届出て下さい。若しその犬が死亡しているにもかかわらず右の届出をなさない場合は、畜犬税の關係で種々問題を生じ、賦課令

人事異動

一九五八年八月一日付で左の通り区長が任命されました。
 五区々長 新垣安義
 六区々長 福地時男
 七区々長 山内昌保
 十一区々長 奥間惟隆

メートル法実施について

明年一月一日からメートル法が実施されます。私達が一日も早くメートル法に馴れるために今日からでも御買物は、斤や匁のかわりにグラムやキログラムや尺のかわりにメートルで、合や升のかわりにリットルで御求め下さる様政府では要望してをります。

一メートル	約一・〇九ヤード	約三三・七センチメートル
一ヤール	約九一センチメートル	約三三・七センチメートル
一鯨尺	約三八センチメートル	約三三・七センチメートル
一尺	約三〇センチメートル	約三三・七センチメートル
一インチ	約二・五センチメートル	約三三・七センチメートル
二デシリットル	約一合一匁	約三三・七センチメートル

一 リットル	約五合五勺
二 リットル	約一升一合
一〇〇グラム	約 ^{二七} 三、 ^{五〇} 五オンス 約 ^〇 、 ^{二二} 二ポンド
三〇〇グラム	半斤(八〇匁)
六〇〇グラム	一斤(一六〇匁)
一キログラム	約二六七匁
一オンス	約二八、四グラム
一ポンド	約四五三、六グラム

私の八重山視察記

嘉手納村議会議員 大城真栄



「八重山視察に就いて感想を書いて呉れ」と頼まれて多少弱つてしまつた。

何故ならばもう半年も前の事で八重山の実状が、大部薄らげて随分忘れかけているところがあるからである。(残念なことにあの当時、夢中になつてしまった八重山の記録も日頃の業務に忙殺されて紛失してしまつた)。然し切角意義ある村広報への記載をお断りするのにも拙いので、粗文を顧みず時折は目を閉じて考えながら最初から完全に旅人者の心算で、感想を纏めてみる事にしよう。

偶々村議会で話にてた八重山視察が、急速に実施する運びとなり、視察日程も定まつた。茲に嘉手納村議会議員八重山視察団と命名し、愈々十二月十二泊港を出発することになりました。態々見送りに来て呉れた村当局の人達と、切れるテープを惜みつつ、船はさようならと日迫る海路へと出た(やはり別離なんて哀しいなあと思つた)何だか寂漠とした想いを胸に秘め、デッキに出た私達は、だんだんと遠くなる棧橋の様相を語り合いながら、これからの楽しい旅路を期待した。本当に師走の黒潮は荒い。視界の眺めが淡くなる頃には、巻逆く波濤のために船は、木の葉の如く揺れていた。先程まで幾百人もの人々が別れを惜しむ棧橋の感激を語り、楽しんで居た私たちの一行は、もはや討死の様相(船酔いの意味)と化してしまつた。

私は散えて安着を念じつつ、明朝を待つことにした。嵐の後の静波を感じた時は、もう宮古群島の沿岸まで来ていた。沿岸一帯の朝霧を押し切つて漲水港に船が横付けしたのは船室の時計が午前九時を知らせてくれた時であつた。船から棧橋に降りた時は、各人が無事を喜びつつ、少しも沖繩本島と交らない宮古の島山を、さも珍らしそうに眺め賞め讃えていた。

私も三年前行つた処なのに新しい感覚を懐しつゝ、この島を眺めたから不思議である。おそらく八重山視察の序頁として、各人の思出に何時までも留めることであらう。その翌る日、新緑の冠なす近くの丘や線なす白浜に別れの手を振りながら船は、順風に乘つて一路八重山へと急いだ。天気は愈々晴れ渡り追風なおも新しく、もはや心は八重山の空へ飛んでいた。(その時の嬉しさと云えばどんな巧文でも書き表わせないであろう)途中別に記する事もなく(私は八重山到着迄寝ていたので)

午後四時頃待望の目的地、石垣港湾に投錨することが出来た。棧橋迄ハシケで渡りながら有名な浮棧橋も見た。宮古に比して港灣、波止場の不備不便には、旅人である私たちがさえ遺憾で堪らなかつた。(近年に立派な棧橋が出来た事を信じて)元は沖繩台湾航路の寄港地で相当賑やかであつたであろうに戦後は、単に沖繩南端の終港というだけである。

八重山開拓団の皆さんや、八重山事務所の方達の心からの款待を受けて、多少恐縮してしまつた。港が見える旅館に旅装を解くことにした(その時の各人の好顔は何のためであつたのか。今もつて理解に苦んでおる)。議長の簡単な挨拶と、明日からの日程を聞いた後、八重山初日の夜を自由に楽しむ事にした。



私はロマンスの國、八重山の初夜を心に想像しつゝあの娘の処で、囁きすることにした。さすがに布団の上に寝転んだ時は、疲労に似た様なものを感じた決して無駄な暇つぶしではない。意味が深いと云えば、云い過ぎだろうか……さあ、愈々本文に乗じて詩の國、ロマンスの國八重山の紹介をすることにしよう。

八重山は、那覇より西南二四〇哩の処にある島で、八つの島々で出来ているので八重山と名付けてあるそうだ。且つ、又字登野城、大川、石垣、新川の四邑を総称して石垣市の事を四箇(シカ)と呼んでいるそうである。……あな不思議である。……昨夜の甘いロマンスの夢も未ださめない儘に、視察第一課である開拓団巡りに出発した。(夕べは疲れたでしよう)と云うならば「いゝえ」と笑うであらうに)八重山警察署長安里さんの特別な御計いと、開業事務所の親切な御好意で、貸して頂いた二台のピックアップに分乗して、心からなる御説明を聞きながら開拓団部落を中心に実地調査した。広漠たる大原野或は、濃緑なる草原を眺めた時、私は豊沃なこの土地が羨しく堪らなかつた(嘉手納村の土地であ

つたらなあと思ひながら)

シカより二時間半バスを北方に走せた
処に嘉手納村出身者の集まる移住部
落野底村がある。山紫水明にして非常
に安住の地だなあとうかがえた。丁度
山原を連想する部落形態で点々と家が
立ち、四〇戸位で野底村と呼称してい
る。

山内正男氏や儀保氏、長田氏もこの村
に移住している。久方振りの再会を喜
び、手厚い歓待を受けて感激しちやつ
た。団案の中にもいろいろと八重山の知
識を受け、更に移住当初の思出又は、
将来の抱負を聞かされた時、私は激賞
の拍手を送つた。(この肥沃な資源を
開発出来るのは、先じて人数でもなく
機械力でもなく完成された人間の信念
と意地であるのだと思つた。)

幸にして今後移住してくるはずの村民
の踏台としての確保は、もう出来てい
ると彼等は語つていた。(茲に私は、
特別に満腔の敬意と、心からなる御芳
志に対して感謝申し上げます)

山内氏の話をかりるならば、壊土は砂
壊土で密林の開墾にしても、沖繩の整
地程度の暇で、余り若勞はない様であ
る。肥沃なる証拠には普通作物で三年
間は、無施肥でその上、在圃日数が短
い様である。又当地の風土に最適で裁
培容易な作物は甘蔗、甘藷、パイナップ
ル等である。

バナー等で農業に生き、農業で出世し
ようという方達には彼等の努力、或は
その実りがこれ迄の苦しみを完全にカ
バーして、発展の一途に在る事だけは
何人も否定すまい。

茲で書き添えるならば、八重山の肥沃
な資源は、心から歓迎を待つているこ
とである。

基地の中の養鶏

儀保 浜太郎



「当嘉手納村は」と打出した後必
ず「九〇%の土地を軍用地に接収さ
れて」と云うのが嘉手納村を紹介す
る常識になつてゐるらしい。

それで残された一〇%の土地で生活
をして居るのだから不思議である。
更に最近はその一〇%の土地も宅地
と基地とどん／＼接収されつゝある
から近い将来に嘉手納村では農業と
云う産業はなくなるのではないかと
心配でならない。斯くなるも農業
(土地を利用する)以外の仕事を見
出して生活をしなければならぬが

記しておき度いのである。同時に移住
者諸氏が、一日千秋の思いで、私たち
の後輩等は、兄弟を待つてゐると信じ
てゐる。この地に又会う日までの別れ
を告げて、次の目的地に行くことにし
た時は、一種の寂寥感を催してならぬ
かつた(私は心の中で、この野底部落
に永久に幸あれと念ひした)

軍作業にも限度があり皆が皆商人に
なる理にも行かず、戦前から純農村
に育つた嘉手納村民としては基地の
中では暮しも楽でない。私の如きも
その例にもれず土地がないから映画
興行でもと思ひつき、一儲けする心
算で始めたが、「百姓の分限で知ら
ぬ唐商人」のたぐいでつい失敗に終
つてしまつたので、それから知つ
た唐商人が良いと悟り、一八羽の養
鶏から始め出して、今はやつと一人
立ち出来る位の四〇〇羽に迄はこぎ
つけることができた。而し私は、養
鶏でボロ儲けしようとは思つていな
い。只安定した生活が出来ればそ
れで良いと思つたからである。

昨今の世相は、勞働争議で首になつ
たり、金融引締めで倒産したり廃業
したりして居るが、養鶏業だけは首
になる心配はないし、卵が売れない
と云う心配もない。現在不景気だと
言つて居るが卵だけは、幾ら産んで
も不足である。不景気でも不足だか
ら景気になつたら幾らあつても足り
ない位だからうれしい悲鳴である。
ですから嘉手納村に養鶏業が多くな
つたからと云つても共倒れする心配

野底村からの歸途、沖繩各地より移住
された開拓団の方々を訪れ、激動や感
謝を申し上げ更に、沖繩の近況を告げた
丸一日の視察は、八重山のいろいろの
問題に新しい発見をすることもあり、
又思ふぬレクレーションを楽しみ決し
て無意味ではなかつた。我輩にのこる
者へな無事の美を羨望する間、正に沖

は多く多ければ多い方が良いと思つ
て居る。
現在、全琉球に日本から輸入されて
居る卵が、年間一億円から一億二千
万円位と言われている。
当村としても去つた六月から十名の
養鶏家を中心として軍向け卵の出
荷をして居りますが(軍向けは船の
いらぬ輸出と言つてゐる)始めた
ばかりですから数字的には少い様に
思われますが、次の統計で養鶏業は
ボロ儲けはしないにしても安定した
仕事だと思つて居ります。

7月分鶏卵生産出荷表 (10人分)

	卵 個 数	代 金
軍 向 け	15,410個	69,345円
村 内 需 要	5,052個	22,734円
計 料 代	20,462個	92,079円
(10名分の合計)		57,990円
		34,089円

以上1ヶ月分を年間に計算しますと

卵 個 数	代 金	飼 料 代	純 益
245,584	1,104,948	695,880	409,068

以上の数字は卵価格四円五拾銭の計
算ですから一個五円以上になると、
ボロがつくかも知れません。
次は鶏糞ですが一羽の鶏で年間三〇
斤の糞を製造する計算になつておる
ので一斤二円で売つても年間一羽で
六十円、一〇〇羽で六、〇〇〇円で
すから一、〇〇〇羽も居ると六〇、
〇〇〇円となり月、五〇〇〇円給の
月給受り一人分はある事になります
糞でも更に利用して野菜の合理的裁
培をして市場に出すならばもつと、
もうかる勘定になります。未だ鶏

養農業の統計は取りま
とめてないので今年一
パイには調査して、鶏
糞利用の効果について
も統計を作つて見たい
と考へて居ります。
以上、鶏止めもない話
になりましたが、嘉手
納村の養鶏業の振興に
でもなれば、幸だと思
つて居ります。

繩農民の姿であり、勤勞者の美であら
う。
石垣市外のパイナップル工場を見学したが、
残念な事に操業中止で、その加工を見
聞する事が出来なかつた。

氏の所有畑は、約三十町歩である。八
重山開墾事業では、真に先駆者であり
功勞者でもある。異国人である氏は、
肥沃な土地と氣候に恵まれた八重山が
忘れられず態々台湾から来島したそう
である。そしてマラリヤの潜む密林を
拓き、凡ての困難に打ち勝つて戦つた
先駆者である。(おそらく氏は、八重山

一の篤農家であり、農業技術者であらう。私たちに氏は、次の様に話していた。

「八重山は、ポリビアでも南米でもない。沖縄の一角なのだ。あなた方の目の前に宝庫の資源があるのだ」と、私は決して無意味な言葉でないと言った。そうだと自給自足が成立してこそ、明日の喜びがあり、又これが万民の希いなのだ。

私は現地移住者の体験と、教示を受けた時、明日からの処世に大なる認識を収めた。所詮人生は、心の修練が第一である。

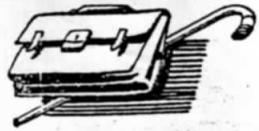
炭坑で知れる南海の宝庫西表島には、天候の都合で行くことは不可能になったが、知っているだけ簡単に書き添えよう。

西表島は、八重山群島中最大の島で地味肥沃地下資源共に八重山随一と云われている。目下、琉球政府の移民団が入植中で、相当の移民実績をあげているようである。移住者の敵であるヤキ一(マラリヤ)も民政府、琉球政府の特別な撲滅対策に依り年々減り、罹病者の数も僅かなもので、その心配はない様である。

愈々、私たちの八重山滞在も今日までと相成った。

学生時代の同輩たちが、小宴を催してくれたので、久し振りに童心に還って戯れた。この友情は尊いものであり、又何時までも消え去らないだろう。

飛行機で帰る数名をのこして、私たちが愈々八重山の地に最後の別れを告げることにした。この楽しく愉快で有意義だった三日間の思出は、永久に各人の胸に変わらない印象を留めることであらう。



出船のエンヂンの音と共に、錨が上げられたとき、思わずほろりと危く涙をこぼす所だった。(無言の内に私は、八重山移住者たちの御健斗をお祈りした)。船は遙か大洋へ出た。そして視界にはもう、鷗の姿さえなく唯々船に当る波のみが単調な音をたてて砕けていた。もはや船は、何の未練もない儘に、エンヂンのかけ声と共に、愈々八重山を遠ざかつて行くだけだ。思出の國、八重山よ、そして宇茂登嶽よ、又会う日までさようなら……。

最後に添え度いのは私の粗文に共鳴して、八重山移住希望者が出て呉れ、ば幸甚だと思えます。

1959年度村諸税賦課期日並納期々限表

※ 納税で幸せ築く 住み良い村 ※

税 種 目	賦 課 期 日	納 期 々 限	回 数
村 民 税	1958年 4月 1日	1958年 12月 30日	2 回
		1959年 4月 30日	
固 定 資 産 税	1958年 4月 1日	1958年 7月 30日	4 回
		1958年 11月 30日	
		1959年 1月 30日	
		1959年 3月 30日	
事 業 税	1958年 4月 1日	1958年 10月 30日	2 回
		1959年 5月 30日	
特 別 所 得 税	1958年 4月 1日	1958年 10月 30日	2 回
		1959年 5月 30日	
自 転 車 税	1958年 4月 1日	1958年 8月 30日	1 回
牛 馬 車 税	1958年 4月 1日	1958年 8月 30日	1 回
屠 畜 税	発 生 の 都 度	発 生 の 都 度	1 回
畜 犬 税	1958年 4月 1日	1958年 8月 30日	1 回
不 動 産 取 得 税	発 生 の 都 度	発 生 の 都 度	1 回
教 育 税	1958年 4月 1日	1958年 7月 30日	4 回
		1958年 10月 30日	
		1958年 11月 30日	
		1958年 12月 30日	

嘉